

移住(1773 年～)

「五島」への移住

五島の最東端にある頭ヶ島天主堂(新上五島町)

五島で見つかったマリア観音像(外海歴史民俗資料館蔵)

18世紀後半、多くの人々は外海から五島列島へと移住しました。外海は狭い土地に人が多く住み、農家の生活は貧しく、藩から長男以外の子供は殺せという命令が出されるほどでした。キリスト教の教えからこの命令に従うことができなかった多くの潜伏キリシタンの家族は、労働者人口が少なかった五島に渡り、歓迎されました。この移住は、1797年ごろにピークを迎え、この頃には3000人ほどが五島に移り住みました。ただし、五島にも外海のように土地に恵まれない場所があり、食べ物が不足することもありました。その状況は、“五島は楽園のようだが、住んでみたら地獄”、と古い歌としても表されていました。